

兵庫県立丹波医療センター

地域医療連携センターだより



T M C
AMBA MEDICAL CENTER

Vol.27
2026

3



〒669-3495 兵庫県丹波市氷上町石生 2002 番地 7 TEL:0795-88-5200(代表)

診療部紹介

消化器内科



内科部長：藤井康和



消化器内科は、食道、胃、腸、肝臓、胆管、膵臓などの消化器領域の幅広い疾患に対応しています。食道や胃や大腸などの消化管の癌、胆管結石や胆管、膵臓癌、B型・C型肝炎や自己免疫性肝炎などの肝疾患、潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患などの診療を行い、特に消化管内視鏡、胆膵内視鏡における診断、治療を中心に専門的な診療を行っています。消化器救急については、吐血・下血・腹痛・黄疸などの症状に対し、24時間緊急対応を行っています。消化管出血に対し内視鏡的止血術を施行したり、緊急または待機的総胆管結石除去術や胆道ステント留置術を施行しています。



(2列目右から2番目が藤井部長)

消化管診断において、上下部内視鏡検査において画像強調観察、拡大観察を行うことにより、より精密な診断を行っています。大腸の10mm以下の腺腫病変については外来でポリープ切除も可能です。早期がん病変は食道・胃・大腸を問わず、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を行っており、先進施設に勝るとも劣らない良好な治療成績を上げています。癌により消化管閉塞を来した際には、手術困難例などにおいて消化管ステントの留置も行っています。

胆膵疾患では、精査としては従来のCT、MRI(MRCP)、ERCPによる診断のみならず、超音波内視鏡による正確な診断やEUS-FNBによる膵癌の組織採取が可能となりました。胆管結石に対する内視鏡的採石、悪性胆道狭窄に対するステント留置術などを積極的に行っています。

肝疾患では、B型・C型肝炎に対する抗ウイルス治療をはじめ、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、アルコール性肝障害など各種肝疾患に対応しています。肝細胞癌に対してラジオ波焼灼療法(RFA)や肝動脈塞栓療法(TACE)を行っています。胃食道静脈瘤を認めた場合には食道静脈瘤結紮術などの治療を行っています。

潰瘍性大腸炎やクローン病に対して従来の治療に十分反応しない難治例などに対して生物学的製剤の投与についても積極的に取り入れています。

進行がんに対しては、当院外科にて適確な外科的切除が可能です。外科で根治不能と判断された場合は、がん化学療法を行っています。近年進歩の著しい分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤の使用も行っています。これらの治療方針は、消化器カンファレンスや内視鏡カンファレンスを通じて、内科と外科の共通認識で決定します。また、必要に応じて随時カンファレンスを行い方針決定しています。又遺伝子診断治療をご希望の患者様については神戸大学医学部附属病院などと連携して対応させていただきます。

内視鏡センター

当院の内視鏡センターは2019年7月当院開院時より内視鏡センターはオープンし全5室(処置、検査室3室、透視室2室、全室CO2送気対応)で様々な検査を行っています。リカバリーベッドは3床を確保し、増加している鎮静内視鏡検査にも対応できるよう体制を整えています。

また、大腸内視鏡検査の前処置のためのトイレや更衣室を確保し、検査を受けられる患者さんがより快適に内視鏡検査を受けていただけるよう努めています。

近年めざましく医療が進み、新規薬剤の開発やガイドラインの改訂が行われる中、皆様により良い医療を提供できるよう努力して参りますので宜しくお願いいたします。



イベント

第7回地域医療連携懇談会開催のご報告

2月5日に地域医療に携わる医療関係者の皆様との連携を図る為に第7回地域医療連携懇談会を開催致しました。今回は6年振りに喜作で行い、懇親会も開催しました。

講演会では当院循環器内科の松本賢亮部長と新倉悠人医長が演者として講演し、医療界の偉人たちの金言を交えながらの心エコーや心音の話、当院で実施している最先端の循環器治療の話などを説明しました。

懇親会では丹波市医師会長の野上壽二先生や丹波篠山市医師会長の片山寛先生のご挨拶もあり、盛況のうちに幕を閉じることができました。ご多忙の中、出席頂きました皆様には深く感謝申し上げます。これからも地域の皆様との「顔の見える」関係を築いていけるよう鋭意努めて参りますので、何卒宜しくお願い申し上げます。



総勢88名が参加し 活発な交流が図れました



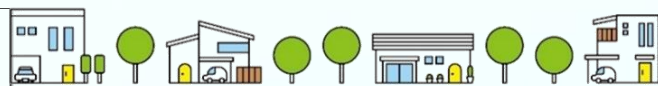
“観察するということを少し深掘りする”
～負荷身体診察ことはじめ～
松本 賢亮 内科部長

丹波医療センターの血管造影室の
現状と取り組み
新倉 悠人 内科医長



第6回地域医療連携ミーティング

地域医療連携センター 田村 千幸



令和8年1月29日(木)に看護部地域連携委員会主催で地域連携ミーティングを開催しました。

丹波市の居宅介護支援事業所のケアマネジャー、訪問看護ステーションの看護師、訪問診療の看護師、健康福祉事務所の保健師など12名、院内の看護師、MSW 33名が参加されました。

テーマは「在宅療養につなぐ医療的ケア支援～気管切開のある患者の事例を通して～」と題し

- 事例発表後グループワークを行いました。参加者からは「医療と介護の連携が大切」「必要な支援や共有すべき情報を再確認できた」「それぞれの立場から意見が聞けて良かった」などさまざまな意見を聞くことができました。

事例を通して、地域の専門職の方々と情報共有し支援策などを話し合うことで、より専門性を高める学びの場となりました。また、顔の見える関係作りができ、繋がる有意義な機会となりました。





～地域の皆さんと研修会をしました～

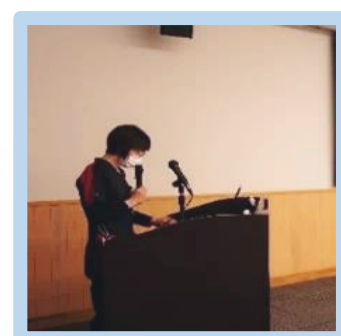


在宅緩和ケア研修会

緩和ケア病棟

婦木 まゆみ

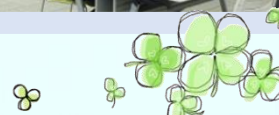
丹波近隣地域の在宅緩和ケアの診療や訪問看護に携わる医療者の方々に参加していただき、研修会を開催しました。研修会は、緩和ケアに関する情報提供、情報交換や事例の検討を行い、当院のがん医療圏域において、地域全体で連携強化と緩和ケアの質の向上を目的に実施しています。今回、緩和ケア病棟を退院した患者さんの事例検討を行い、在宅療養支援に必要な視点や終末期ケアに関する課題など意見交換しました。私たちは、苦痛緩和の治療とケアをしながら、在宅への円滑な移行を支援することも重要な役割だと考えます。その中で、高齢や認知機能の低下のある患者さんが増える中、在宅での麻薬管理や、症状緩和における医療的処置が安全に継続されるためには、「つなぐ」ための連携が重要だと考えています。患者・家族が最期まで望まれることを確認しながら、在宅療養で予測しきれないことが起こったときも、患者・家族の希望に悔いがないような暮らしを支えることができるよう、地域の医療者の方々と連携を図っていきたいと思います。



がん看護緩和ケア研修会

がん性疼痛緩和認定看護師 藤原 美由紀

当院は地域がん診療病院であり、看護師を対象とした「がん看護緩和ケア研修会」を毎年開催しています。今年度は「がん患者・家族とのコミュニケーション」というテーマで、講義とグループディスカッションを行いました。丹波市・丹波篠市内の病院・クリニック・訪問看護ステーションから多くの看護師に参加頂き、日頃から悩んでいるがん患者・家族とのコミュニケーションについて、語り合う事ができたとの感想をいただきました。今後もがんに関するテーマを決め開催していきますので、少しでも多くの皆様に関心を持ち参加していただけたらと思います。



もの忘れ外来

毎週 金曜日 脳神経内科

こんなことはありませんか

- ・探し物が増えた
- ・同じ話を繰り返す事が増えた
- ・ものの名前が出にくくなった



大塚喜久部長

もの忘れについて、専門医と認定看護師が
診断・治療から生活のお悩み相談にまで対応します。

どうぞ、お気軽にご相談ください



認知症看護認定看護師の活動紹介

認知症のある方にとって、生活環境や人との関わりの変化は、大きな不安につながることがあります。認知症看護認定看護師は、その方がこれまで大切にされてきた思いや人生の背景を丁寧に汲み取り、持っておられる力を正確に捉えることを大切にしています。

入院中の方はもとより、物忘れ外来を受診される方や、そのご家族が抱える不安、日常生活の中での困りごとをお聞きし、その人がその人らしく生活を続けていけるよう、医師や多職種と連携しながら支援を行っています。診療に関わる中で、病気や検査の説明だけでなく、生活上の工夫や、ご本人・ご家族の思いに寄り添った支援、地域の相談窓口や支援機関とのつながりも大切にしています。「どこに相談したらよいかわからない」と感じたときに、安心して声をかけていただける存在であることを目指しています。

認知症看護認定看護師 カロル悦美



検査部

超音波減衰法検査 (UGAP : Ultrasound-Guided Attenuation)

近年、脂肪肝の疾患概念が大きく変化し、「代謝異常関連脂肪性肝疾患 (MASLD)」と「代謝異常関連脂肪肝炎 (MASH)」が提唱されました。またこれらの疾患は生活習慣病とも密接に関係しており、早期に発見し治療につなげるのが非常に重要となります。

当院では令和 7 年 12 月より、超音波診断装置 (GE Health Care 社の LOGIQ E10) を用いて非侵襲的に肝臓の脂肪化を評価する超音波減衰法(UGAP)を開始しました。超音波減衰法検査では、脂肪肝による超音波減衰を比例定数 (dB/cm/MHz) で表すことで脂肪化を数値化することができるため、主観によらない肝脂肪化の診断が可能となります。

脂肪肝で慢性肝炎または肝硬変疑いの場合に、診療報酬区分 D215-4「超音波減衰法検査」(保険点数 200 点)として 3ヶ月に 1 回算定可能です。地域医療連携センターを介して、超音波減衰法による肝脂肪化の定量評価の検査依頼をぜひお願いします。

(UGAP の脂肪化診断能)

UGAPの脂肪化診断能 (MRI-PDFF別)

	S1 (PDFF:5.2)	S2 (PDFF:11.3)	S3 (PDFF:17.1)
Cut off	0.65	0.71	0.77
AUC	0.910	0.912	0.894
Sensitivity(%)	86.7	90.6	81.0
Specificity(%)	87.0	77.5	87.6
PPV(%)	85.9	90.5	84.7
NPV(%)	77.0	93.4	94.5

Imajo, K. et al. Utility of ultrasound-guided attenuation parameter for grading steatosis with reference to MR-PDFF in a large cohort. Clin. Gastroenterol. Hepatol. https://doi.org/10.1016/j.cgh.2021.11.003 (2023).

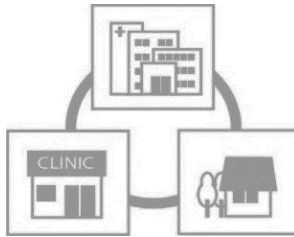


- GEヘルスケア社製 UGAP特長 —
- 【特長1】 自動計測アルゴリズムにより計測ROI設定が不要
 - 【特長2】 LOGIQ製品間、同一アルゴリズムでの計測
 - 【特長3】 Quality mapで至適な計測範囲が瞬時に判断可能



検査依頼方法

当院 ホームページより
 医療関係の方へ→関連書類ダウンロード→
 診療情報提供書 (生理検査依頼書)【様式 4】
 上記書類の上腹部(+超音波減衰法)にチェックをお願いします。



街の医療機関

地域医療を担う近隣の医療機関を紹介させていただくコーナーです。医療機関の特徴を知り、地域住民の皆様に良質かつ効率的で切れ目のない医療が提供できる連携を目指します！
 今号は、細見クリニック・細見 成一先生をご紹介します☆

2月3日に、丹波篠山市の細見クリニックを訪問し、細見成一先生にお話を伺ってきました。細見先生は昭和59年に山形大学を卒業後、神戸大学医学部小児科、続いて京都大学医学部産婦人科で研修されました。その後京都大学医学部の研究生として、主にヒトの発生・発育に関する研究にたずさわる傍ら、複数9 関連病院で研鑽を積まれました。平成4年に篠山市大熊にベテスダ・クリニックを開業され、その後一昨年の12月に現在の黒岡に移転されました。平成28年には本籍地でもある丹波市に三井庄細見医院を開院、細見クリニックは耳鼻咽喉科の塩田絵里子先生が院長をお務めになられています。早くから故郷での地元で根差した医療を考えておられ、今も丹波篠山市と丹波市の2つの診療所を毎日往復しつつ、地域医療を支えられています。

(芝 記)

